

## 三重の土地改良アラカルト

### 多気町出江地区における ほ場の大区画化等と 獣害対策の取組について



整備前 (H24.12 撮影)



整備後 (H29.2 撮影)



整備後 (H29.3 撮影)

#### 地区の概要

本地区（下出江地域）は、多気町のやや西より、一級河川櫛田川の左岸側に位置している。地区の地形は、地区の中央を横断する農免道路を境に北側は急傾斜な谷地部、南側は平坦な平地部に大きく分けられる。谷地部においては、狭小、不整形な水田が連なっており、所々で耕作放棄地が見受けられる。また、谷地部の中央には本地区の重要な水源となっている山口池が存在しているが用水の絶対量が不足している状況である。平地部には、下出江の集落があり、その周辺

に小区画の水田、畑、茶畑等の農地が広がっている。

#### 地区の現状と課題

本地区の農用地の60%程度は谷地部に位置しており、地形的に不利な条件であるうえ、生産基盤であるほ場・農道・用水路・排水路等が未整備である。また、谷地部に位置していることから、イノシシ、シカ等による農産物の食害の被害が深刻な課題となっており、耕作放棄地の拡大の懸念がある。営農面においては、高齢化、担い手不足等による農業従事者の減少が深刻化する中、地域の担い手への作業が進みつつあるが、大半は自己完結型の農業が主流であり、今後の農業の衰退が懸念される。また、ブロックローテーションによる集団転作がほとんど行われておらず、水田の汎用化が進んでいない。こうした生産基盤、営農等の現状を踏まえ、今後の地域の農業を支えていくためには、安定した経営体の育成と総合的な生産基盤の整備が急務となっている。

#### 取組内容

##### (1) ほ場の大区画化等

本地区では、平成24年度から、国の補助事業を活用し、ほ場の大区画化等を進め、平成28年度末には一部の地域が完成し、平成29年4月に田植えが行われた。

ほ場の大区画化等により、大型機械の導入が可能となるなど生産性が向上したほか、開水路のパイプライン化(自動給水栓)や貯水施設による用水の反復利用などにより、水利用の効率化や水管理の省力化が図られた。

##### (2) 獣害対策

本地区では、広がりつつある獣類による農作物被害を軽減するため、今回の基盤整備に併せて、地域全体で獣害防止柵の設置に取り組むこととしている。

その取組の中で、農地や集落間を走っている生活道路から動物が容易に農地へ侵入することを防ぐため、人や車は通行でき動物の侵入を抑止することを可能としたグレーチング製品を設置している。

#### 今後の取組方向

引き続き、収益性の高い農業の実現に向け、ほ場の大区画化や農業用水路のパイプライン化などの農業生産基盤の整備を着実に進めていく。



整備後の営農状況



貯水施設(反復利用)



動物の侵入抑止製品